



話す・聞く②

伝わるスピーチをする

- ① 話す・聞くの前に…………… 巻頭 2
- ② 伝わるスピーチをする…………… 巻頭 4
- ③ 話し合いで合意を形成する…………… 巻頭 6

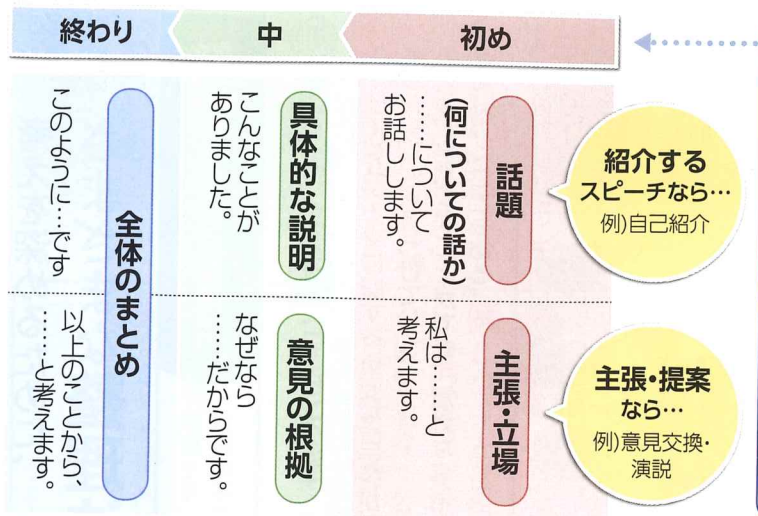
まずは何を話す？

構成と内容の工夫

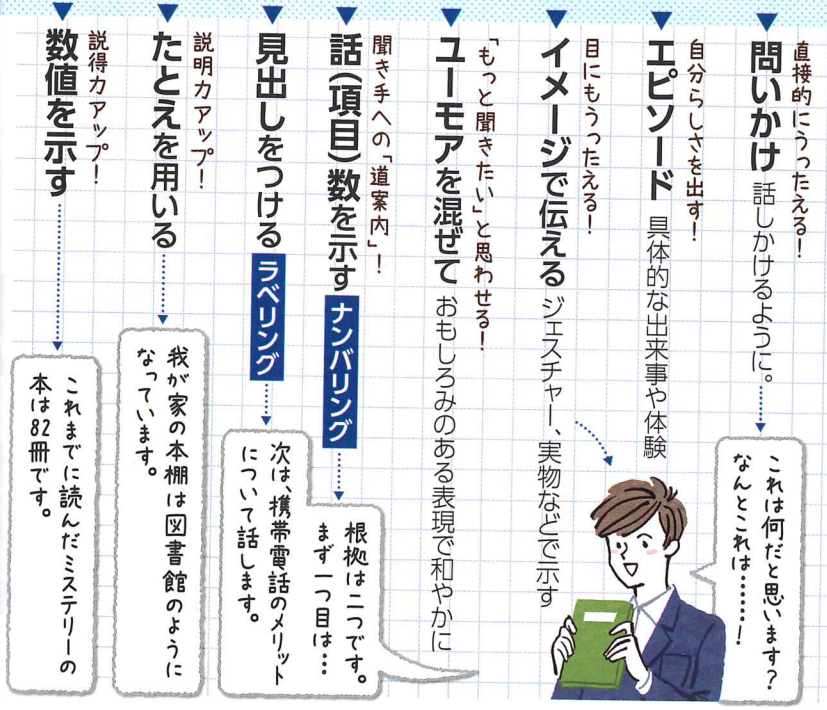
スピーチは回限りのもの。わかりやすくはもちろん、話し手の興味を引き、印象に残るための工夫が命！

構成の基本 (巻頭8)

「3つのまとまり」で考える



内容の工夫



聞き手の姿勢

スピーチは、話し手と聞き手の共同作業。聞き手のよい反応が、話し手の「伝えたい」を引き出し、よいスピーチを生み出す。

● 話しやすい「聞き方」を

あいつを打つ、話し手をしつかり見るなど、好意的に聞いていることを態度で示す。

● 内容を理解するために

① 話題や話の流れを意識して聞く。

全体の話題は「〇〇」で、さっき、事例は二つだといっていたぞ。今はまだ一つ目だよな……

② 目的を持って聞く。

このボランティア体験を聞いて、自分が参加するときの参考にしよう。



● 聞いて自分の考えを深める

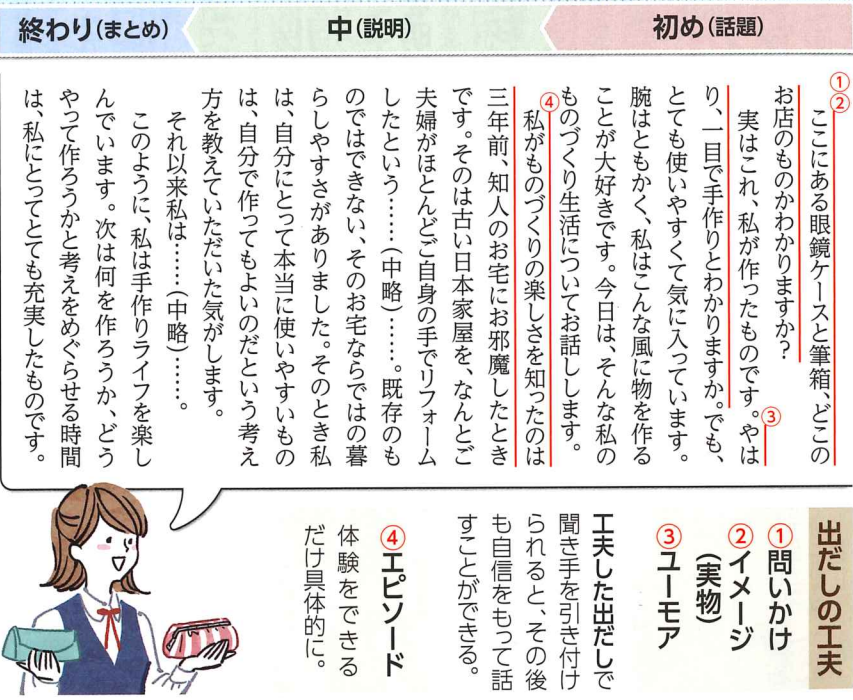
① 意見を検討しながら聞く。

事実と意見を聞き分け、あげられた事実が意見の根拠として適切かを考える。

② 自分の考えと比較して聞く。

共通点と相違点を整理する。

スピーチ実例 私が夢中になっていること



人の心を動かすスピーチ — “名”スピーチの魅力 —

マララ・ユスフザイさんによるノーベル賞授賞式・国連スピーチ



私たちにとってもっとも強力な武器である本とペンを手に取りましょう。1人の子ども、1人の教師、1冊の本、そして1本のペンが、世界を変えられるのです。

Let us pick up our books and our pens, they are most powerful weapons. One child, one teacher, one book and one pen can change the world.

17歳という史上最年少でノーベル賞を受賞したマララさんのスピーチは、難しい言葉を使わず、印象的なたとえや繰り返しの使った主張を強調しているのが特徴。「ペンが世界を変える」など、身近で具体的な事物から、大きな実現へのイメージをつなげる巧みなたとえが、主張を鮮明に印象付ける。



巻頭特集

話す・聞く

読む(評論文)

書く

記述の実践

読書案内

スピーチメモを用意しよう

「ここにある眼鏡ケースと筆箱……」
(2つをみせる)
実は、物を作ることが大好きな三年前、知人のお宅のリフォーム暮らしたんですよ、使いやすいものは自分で私にとって充実したもの

「ここにある眼鏡ケースと筆箱……」
(2つをみせる)
実は、物を作ることが大好きな三年前、知人のお宅のリフォーム暮らしたんですよ、使いやすいものは自分で私にとって充実したもの

間をとる
強調

memo /

- ① 話の出だしや、接続詞をメモするのもよい。
- ② 話すときの工夫も書く。
- ③ 話し方、注意点を記号で示す。

速さ 一分間二〇〇字が目安。
声量 会場全体に聞こえる声で。
強調 大事なことを印象づける。
表現 一文は短く、主語がわかるように、難しい言葉はさける。

前を向いて緊張してしまったり、親しい人を思い浮かべて、その人に伝えるつもりで話そう。

話し方の注意点

どう話す？

さあ本番！